

部 長 富 嶋 明 人
研究主任 尾 関 愛 音
部 員 数 24名

1 研究主題

新たな価値を創出し、生活の中に生かす子ども

— 子どもの思いや願いの実現をめざし、学び続ける授業 —

2 はじめに

昨年度は、コロナ禍で部員が一堂に会しての研究がままならない中でも、上記の研究主題のもと各校で部員が研究を進めた。本年度は、4月に各校の現状や今後の取り組みについて話し合い、昨年度からの継続研究として上記の研究主題のもと研究を進めていくことにした。実践報告を行い、子どもがどのような思いや願いをもったか、どのような子どもの気づきが見られたか、子どもの気づきの質を高め、学びを深めるための教師の支援はどうだったかを考察した。さらに、コロナ禍での今後の授業計画や取り組みについて情報交換を行った。加えて、愛知県生活科教育研究大会に参加するとともに、愛知県小・中学校教育課程研究集会の伝達講習を行う等して、研鑽を重ねた。

3 研究経過

- (1) 研究主題に沿って、各部員の勤務校においての実践報告をもとに、定例の研究会にて協議をした。本年度は、以下の単元で実践報告及び協議を行った。

【1年生】「がっこう だいすき」 「きれいに さいてね」
「いきものと なかよし」 「たのしい あき いっぱい」

【2年生】「ぐんぐん そだて わたしの 野さい」
「ドキドキ わくわく まちたんけん」
「生きもの なかよし 大作せん」
「うごく うごく わたしの おもちや」
「みんなで つかう まちの しせつ」

- (2) 愛知県生活科教育研究大会に参加し、実践事例の中から、参考となるところを日々の実践に生かした。

- (3) 愛知県小・中学校教育課程研究集会に参加した部員による伝達講習を行い、以下の内容について研鑽を積んだ。

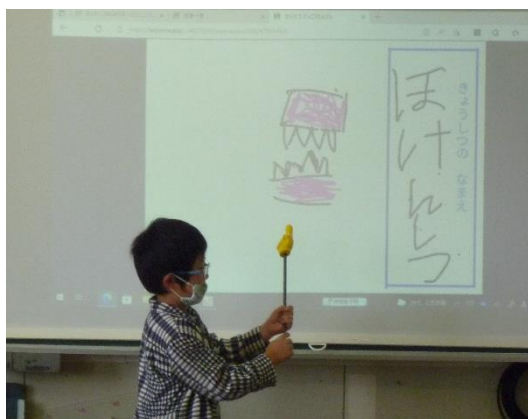
- ① 生活科における主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について
- ② 生活科における指導と評価の一体化について
- ③ 学校における棒物飼育について

4 研究の概要

(1) 1年生「がっこう だいすき」(A 小学校の実践より)

前单元「どきどき わくわく 1ねんせい」では、クラスごとに校内を探検し、教室や学校の施設が自分の生活にどのように関わっているかを考えた。その後、本单元「がっこう だいすき」では、より詳しく知りたい場所の探検をグループに分かれて行った。探検する際、教室にはないものや教室とは大きさ等が異なるものを探すように視点を与える教師の働きかけを行った。

グループごとの探検が終わった後、校長室(校長先生)、保健室(養護教諭)、図書室(図書館司書)の中からもっと知りたい場所へ再度行き、話を聴いたり、どのような仕事をしているのか等の質問をしたりして、学校にいる人々の働きや役割について考えた。そして、国語科の「こんなものみつけたよ」と関わらせながら、ロイロノートに絵をかき、気付いたことや見つけたものを伝え合った。教室とは異なるところを見つけようと意欲的に取り組む子どもの姿が見られた。



児童のワークシート



見つけたものを伝える児童

その後、通学路の一部を歩き、地域の人々や安全を守っている人々、施設について知り、登下校時安全に気を付けて行動しようとする意識を高めた。

(2) 2年生「ぐんぐん そだて わたしの 野さい」(B 小学校の実践より)

自分が育てたい野菜を5つの中から決め、一人一鉢野菜の栽培を行った。実際に目で見たり、触ったり、においをかいだりしながら、それぞれの野菜の様子や変化、成長に関心をもち、世話をすることの楽しさや難しさを感じる児童の姿が見られた。

1年生の「きれいに さいてね」で植物の栽培を行った際、天候や気温に左右され屋外へ出られなかったり、ワークシートに書く時間に個人差があったりすることで、活動が制限されてしまうということがあった。その課題を改善するため、今回はタブレット端末を活用した授業づくりを行った。

タブレット端末を活用したことで、前年度の課題が改善されただけでなく、カメラ機能を使ったことで、絵をかくことが苦手な児童も写真を拡大しながら細かいところまで観察カードにかくことができるようになった。

また、タブレット端末に記録した写真（野菜の様子）を繰り返し確認しながら気づきをまとめたり、成長の過程を時系列に見ながら、前時と比較して観察をしたりすることができた。

タブレット端末を活用して、個の学びを深めることができた。タブレット端末の活用だけでなく、写真を共有し比較することで、同じ野菜でも成長の様子が違ったり、野菜によって葉の形などが違っていたりすることを発見する等、関わり合いながら気づきの質を高める姿や新たな見方を見いだす姿があった。



タブレット端末の活

児童のワークシート

5 今後の課題

具体的な活動や体験を通して、それぞれの単位において、自分なりに思いや願いをもって主体的に学習に取り組む姿が見られた。他教科と関わらせたり、タブレット端末を有効に活用したりすることで、子どもたちの気づきの質が高まり、学びが深まることが分かった。しかし、子どもの気づきや内容には個人差が見られ、いかに関わらせながら学びを深めていくかが今後も課題となる。子どもの思いや願いを実現するとともに、気づきの質を高め、学びを深めていくための教師の支援の在り方をさらに追究していきたい。